

「衣料品の維持・ケア、廃棄・処分に関する調査」の概要と結果

日本衣料管理協会 調査部会委員 依田 素味

当協会は、会員大学の協力のもとに衣料管理士（TA）の養成課程の学生に、「衣料の使用実態調査」（取得・所持・使用の実態）を毎年実施している。同時に話題性の高いテーマでトピックス調査を実施している。

2024年度は、「衣料品の維持・ケア、廃棄・処分に関する調査」を行った。今回はコロナ禍をはさみ、前後の変化も含め、以下にその一部を紹介する。

調査実施概要

調査対象	全国の衣料管理士（TA）養成課程の女子学生417名（平均年齢20.7歳）
調査期間	2024年（令和6年）12月末から 2025年（令和7年）1月初旬（冬休み期間）
調査方法	配票調査及び託送調査

調査結果概要

●購入時には取扱い表示にこだわらない派が増加

回答者は被服系学部のTA養成課程の女子大生であるので、一般学生よりも衣服のケアとして取扱い表示に対する意識が高いと思われるが、購入時に表示を「確認しない派」がコロナ禍前の2018年（内側の円）よりも、2024年（外側の円）が増加している。「かなりの頻度で確認する」人が若干増加している一方で、「ほとんどしない」人が10%ポイント近く増加していることは見逃せない。この層の人たちは、最近では素材の安定性が高いため、特に確認しないということなのか、はたまた維持・ケアに対する関心が薄れてきているのか、今後も注視していく必要がある。

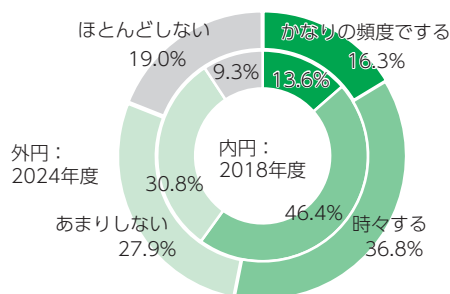


図1 購入時の品質表示確認
2018年度 n=442、2024年度 n=416

●実家暮らしの女子大生、洗濯は親任せ

衣料品の維持に欠かせない洗濯について、今回の調査で実家暮らしの336名のうち、自分で洗濯をする学生は8.0%

に留まり、洗濯する人は86.0%が母親、3.0%が父親であった。そもそも自分で洗濯をしない学生が多いため、取扱い表示への関心は高くないという見方もできそうだ。

●個性重視で古着などのマイナスイメージは減少

コロナ禍前後で衣服の二次流通、古着店やフリマアプリの衣料品に対して、マイナスイメージ（グラフ内の▼の項目）は減ってきている。そして、「環境にやさしい」は大きく増え、「味がある」「個性的」の項目も増加している。環境意識が高くなり、個性重視の女子大生の傾向がこの結果から読み取れる。

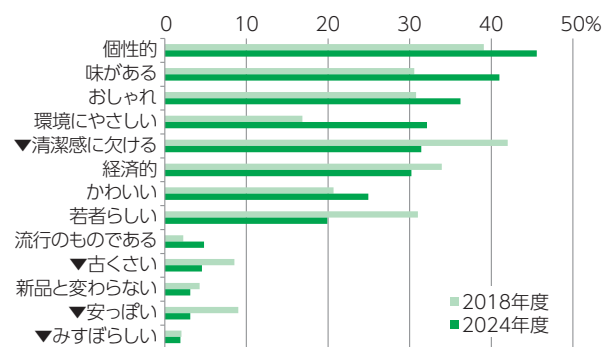


図2 二次流通衣料品への意識（複数回答）
2018年度 n=445、2024年度 n=417

●廃棄方法としてのフリマアプリ利用も過度期

コロナ禍前の2019年度と、ほぼ落ち着いた2024年度を比較してみると、着なくなった衣料品の廃棄は、一般ゴミとして廃棄が増加している。リサイクルショップやメルカリなどのフリマアプリの利用含め、その他の方法はわずかながら減少している。フリマアプリの活用増加が指摘されてきたが、女子大生の衣料の廃棄方法、そして二次流通への意識も過度期にきているようだ。

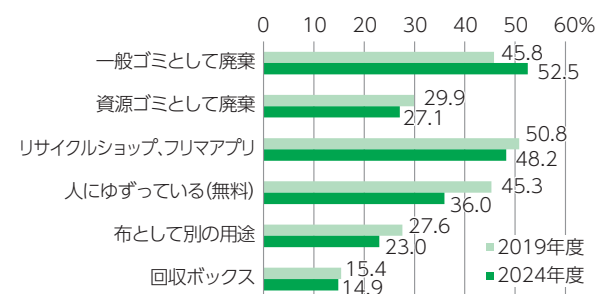


図3 廃棄方法（複数回答）
2019年度 n=579、2024年度 n=417